



果試ニュース

第5号 平成9年8月



天香



はるみ



口之津20号

試験研究の課題は、地域農業改良普及センターや農業団体等、営農指導の現場から提起されたものをもとにして、重要な緊急性の高い問題から取り組むようにしている。そしてできるだけ短期間に解決を図り、その技術を普及に移し、順次課題を更新している。

かねてハウスみかんの単収が少ないことから、9年度から生産力を高めるための技術開発に取り組んでいる。またハウスという隔離された環境では、ハダニの防除に天敵を利用できないか探ってみることにした。さらに最近各地でモンパ病による樹勢の衰弱した園地が発生しており、効果的な防除対策の検討を始めたところである。

果樹は永年性で1年1作であるだけに、再現性のある成果を得るには少なくとも3年、課題によっては5年以上の期間を必要とするものである。そのなかで次々に新しい課題に挑戦している。現地で技術的に解決を要する問題が発生したときは試験場へ提案していただきたい。

場長 向井 武